

平成29年5月11日(木)

老球の細道325号

「甘チュア」から「辛チュア」へ

会津バスケットボール協会 室井 富仁

アメリカのプロバスケットボールが誕生したのは体育館の使用料を払うのがきっかけだった。1895年バスケットボールの人気の高まるにつれて観客が増えきた。それにより、あちこちの体育館がバスケットボールの独占使用になってしまい他の運動種目が使えなくなってしまった。そのために体育館側は急遽バスケットボールの使用禁止を打ち出した。それまで無料で体育館を使用できたバスケットボールチームは、やむなく有料の体育館を探して使用することになった。その使用料を捻出するためにお客さんから入場料を徴収した。それで体育館の使用料金を捻出し、余ったお金を選手に配当した。ここにプロバスケットボール選手、チームが誕生し、現在のNBAプロバスケットボールとつながっていく。

昔はアマチュアスポーツの祭典であったオリンピックに、NBAプロバスケットボールオールスター軍団「ドリームチーム」が出場を認められたのは1992年バルセロナオリンピックだった。これにより、あらゆる競技がプロ選手解禁に進んだ。そのため現在はオリンピック憲章から「アマチュアリズム」という言葉は削除されている。

そもそも「アマチュア」の資格を規定したのは、19世紀の前半にイギリスで始まった「ヘンリー・レガッタ組織委員会」である。レガッタ(ボート)大会の出場者を大学、パブリックスクール、陸海軍士官、アマチュアクラブに限定した。当時のブルジョアジーが肉体労働者を排除する目的だったからである。現在では、アマチュアとプロの違いは、職業として金銭的な報酬を得ているか得ていないかくらいしか認識できない。

アマチュアもプロもゲームの目標は「勝つこと」である。勝つことを目標にしてお互いに全力を尽くして戦うことに意義があり、面白さがある。その結果、アマチュアは全力を出し尽くせば負けてもOKだが、プロは「結果」はどうでもいいは通用しない。生活がかかっているから勝たなければならない。アマチュアは、基本的には自分のためにがんばり、全力を尽くして楽しめば良い。プロは、勝つことによって「お金を稼ぐ」「ファンを楽しませる」ことに真骨頂がある。くどいようだが、勝負にこだわるのはアマもプロも同じ。

いつも両方のゲームをナマで観戦している。Bリーグのプロバスケットボール、そしてアマチュアの社会人大会。どちらもバスケットボールのゲームであるが、プロとアマの差は歴然としている。実力だけではなく、目的、目標を追求する姿勢が・・・。

残念なのはアマチュアの大会である。スポーツの目標は勝つこと。勝つことを目指して真剣に闘うこと。この点はプロもアマも同じ。しかし、ミスしても皆で笑顔、疲れると動かない、ボールを追わない。ベンチの多くのコーチに策はなし。アマチュアは甘チュアと化してはいけない。

今年度から全日本選手権大会の試合方式が変更になり、プロのチームもアマチュアのチームも区別なく試合をするようになる。プロを相手にギャフンと言わせるようなアマチームが育ってほしい。特に会津地区においては今後、高校生が卒業後地元で本格的にプレーできる受け皿として、憧れられる社会人チームがたくさん存在することを願ってやまない。

バスケットで飯は食えないが夢は食える。ボロは着てても心は錦、アマチュアの身であっても心はプロ、辛チュア。このような社会人チームでわが地区を埋めつくしてほしい。